

単元名 安全なくらしを守る
小単元名 ～なくそうこわい火事，そなえようこわい災害～

第4学年 1組（男子19名 女子16名 計35名）

指導者 渡辺 希

1 単元構想

◆学習指導要領の内容（3）

地域の安全を守る働きについて，学習の問題を追及・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）消防署や警察署などの関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。

（イ）見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）施設・設備などの配置，緊急時への備えや対応などに着目して，関係機関や地域の人々の諸活動を捉え，相互の関連や従事する人々の働きを考え，表現すること。

（1）単元観

本単元は，内容（3）を受けて設定している。小単元「なくそうこわい火事，そなえようこわい災害」では，災害から人々の安全を守るための関係機関として，地域の消防署や消防団の働きを取り上げる。消防署では，緊急を要する消火活動のために様々な工夫を行っていることや，通信指令室を設置することで，諸機関が連携・協力して迅速に消火活動を行う体制を整えていることを学習する。そして，消火活動だけでなく地域の防火設備の設置や指導，防火の広報活動や訓練などの備えをしていることや災害時に出勤していることを学習する。また，地域の消防団も，消防署員に協力して消火活動を行うだけでなく，地域の防災を支える働きをしていることも学習する。消防署，消防団をはじめとする地域の人々が，見えないところで暮らしの安全を支えていることを調べる中で，地域の一員として自分たちにできることを考えることができる単元である。

（2）児童観

本学級の77%の児童は，「社会科の学習が楽しい」と感じており，その主な理由として「見学に行っても自分の知らないことが分かる」ことを挙げている。楽しさを感じていない児童の理由として「資料から分かることを探すのが難しい」ことを挙げている。

消防署については，消防署の見学をし，迅速に出動できる工夫がたくさんあることや，消防車だけでなく，救急車が配置されており，消防署で働く人が救助の仕事をすることも知っている。しかし，通信指令室の設置の意義，消防署で働く人たちが「一人でも多くの人の命を救いたい」と，命をかけて活動をしていること，防火・防災のために様々な活動を行っていることについて理解している児童は少ない。また，「消防団」について存在や役割を理解している児童は，学級の1割程度しかおらず，地域のために様々な人たちの「共助」があることを知らない児童が多いと言える。平成30年西日本豪雨を体験し，災害の恐ろしさを実感したり，避難することの意義を感じたりしている児童は多い。しかし，いつでも避難するための備えについては，家庭によって差が大きい。

（3）指導観

本小単元では，火事と災害時の「公助」「共助」「自助」の3つの視点から単元を構成する。

「公助」の視点では，消防署の仕組みやそこで働く人に着目させる。児童が消防署で働く人々を自分たちの身近な人として捉え，主体的に課題を発見したり解決したりしていくために，単元を通して一人の消防士の方にスポットをあてていく。その際，インタビュービデオや写真，実際

に話してくれたことを資料として活用していく。そして、消防署の仕組みや工夫を理解するとともに、消防署で働く人が、どんな思いで働き、その思いが自分たちの生活とどのように関わっているかといくことに気付かせていく。

「共助」については、自分たちの知り合いや地域の方が消防署と協力しながら共に助け合っていることに着目させる。ここでも、実際に児童が知っている消防団の方に聞き取りをしたことや、公民館や自治協議会の方から聞いたことなどを資料として活用し、「地域のために」という思いで様々な人が活動していることに気付かせる。

「自助」については、単元の終末に「だれかに任せていれば大丈夫」という意識ではなく、「自分でできること」について考えさせる。「ハザードマップ」「東広島市緊急告知ラジオ」「東広島市防災メール」など、普段何気なく見たり聞いたりしているものが、自分の命を守るために必要なものであることに気付かせ、実際に自分が火災や災害時にどのように行動するかということも考え表現させていきたい。

単元の最後には、「公助」「共助」「自助」の3つの視点からリーフレットを作成し、家庭で「防災」について話し合うきっかけとしたい。

2 単元の目標

- 地域の人々の安全を守るための関係諸機関の働きと、そこに従事している人々の工夫や努力を理解し、諸機関の活動の様子を的確に見学したり調査したりするとともに、調べた過程や結果をノートや作品にまとめることができる。

(知識及び技能)

- 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することができる。

(思考・判断・表現)

- 地域の人々が行っている火災予防、防災活動などに関わる活動の中から、地域社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心掛けるべきことを考えたりできる。

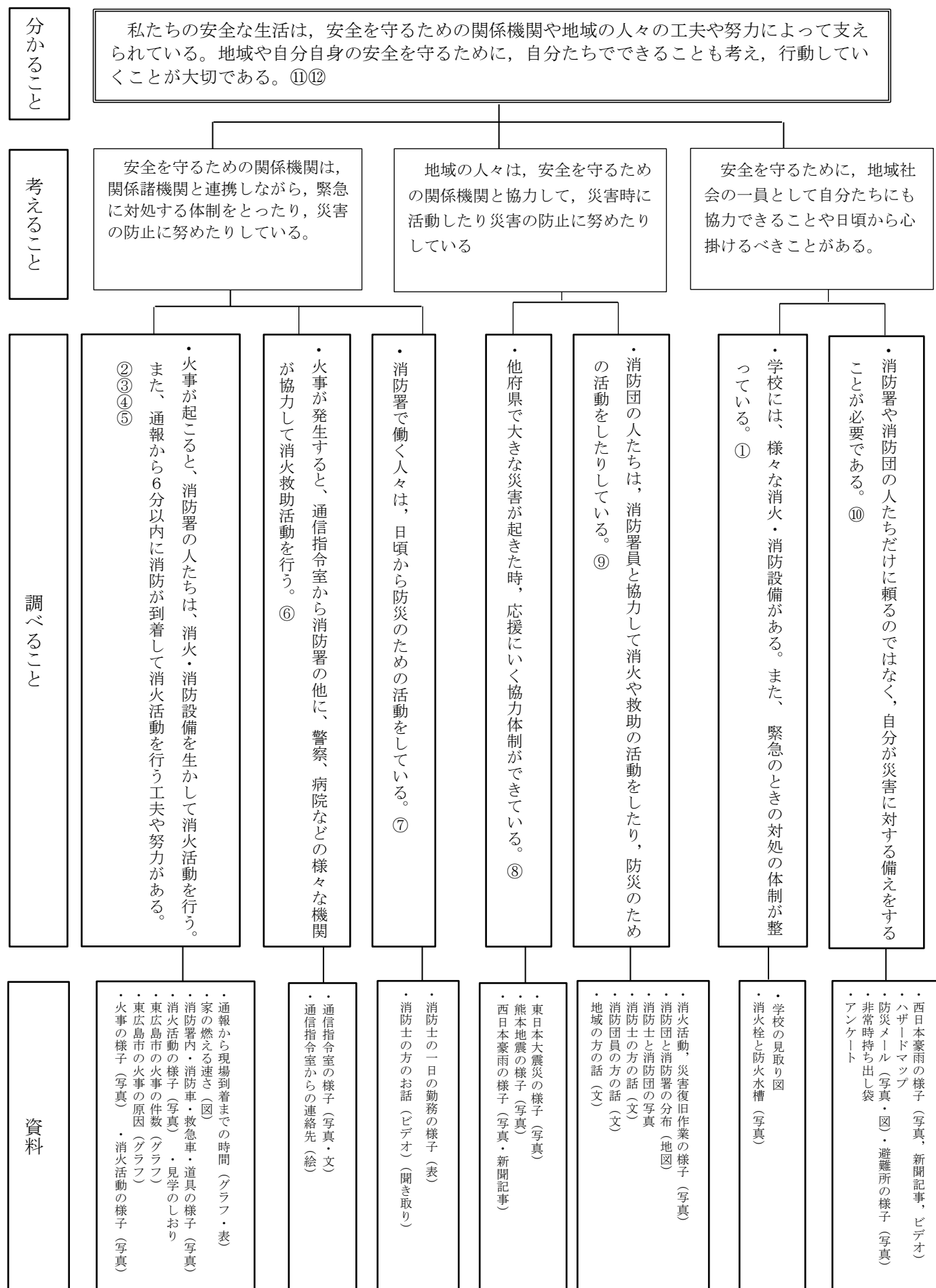
(学びに向かう力・人間性)

※評価の観点は、研究推進のために本校独自で作成しています。

3 単元の評価規準

社会的事象についての 知識及び技能	社会的な 思考・判断・表現	社会的事象にかかわる 学びに向かう力・人間性
①地域の人々の安全を守るための関係諸機関の働きと、そこに従事している人々の工夫や努力を理解している。	①地域の人々の安全を守るための諸活動について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、地域の人々の安全を守る諸活動の特色や、それらと地域の人々の安全な生活の維持と向上との関連について考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。	①地域の人々は、その願いを実現するためにさまざまな工夫や努力、協力をしていること、その結果、人々の安全な生活の維持と向上が図られていることに興味をもっている。
②諸機関の活動の様子を的確に見学したり調査したりするとともに、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。		②地域社会の一員として協力し、日頃から心掛けるべきことを考えている。

4 本単元の知識の構造図



5 指導計画（全12時間）

次	時	主な学習活動・学習課題	評価の観点 評価規準及び評価方法
I	1	・学校の様々な消火・消防設備を調べ、緊急のときの対処の体制が整っていることを知り、自分たちがすべきことを考える。 学校で火事が起きたら、どうすればよいのだろう。	【学びに向かう力・人間性】 学校における火事に備えるための設備について調査し、どのような備えがあるのかを調べたり、自分たちがすべきことを考えたりする。（ワークシート）
II	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	・火事に素早く対応するための消防署の施設や設備の様子や工夫、働く人々の仕事や働きを見付ける。 なぜ、消防署から平岩小までわずか5分で現場に到着できるのだろう。 消防署で働く人たちは、どのような仕事をしているのだろう。	【知識及び技能】 火事が発生したとき、一刻も早く火事現場に到着できるように消防署が配置されていることに気づき、働く人々の仕事や働きを見付け、まとめている。（ノート）
	6	・119番通報の仕組みを調べ、火が発生すると、通信指令室から消防署の他に、警察、病院などの様々な機関が協力して消火救助活動を行う協力体制について考える。 なぜ、通信指令室があるのだろう。	【思考・判断・表現】 119番の仕組みを調べることを通して、災害時の対処の方法を身に付けるとともに、消防本部の通信指令室の役割や関係諸機関との連携・協力体制について適切に表現している。（ノート）
	7	・消防署で働く人々は、日頃から防災のために行っている工夫や努力について考える。 なぜ、火事が起きていないのに、防火服を着たり、消防車に乗ったりする人がいるのだろう。	【思考・判断・表現】 消防署で働く人々が日頃から防災のために行っている様々な仕事や一つ一つの仕事の目的や思いを考え、適切に表現している。（ノート）
III	8 (本時)	・消防団の人たちは、消防署員と協力して消火や救助の活動をしたり、防災のための活動をしたりしていることを理解する。 なぜ、平岩には消防団があるのだろう。	【知識及び技能】 地域の消防施設や消防団について調べ、消防団が地域を守るために様々な働きをしていることについて理解することができる。（ワークシート）
	9	・消防団以外の共助について、地域の活動や備えなどを知り、地域の人々が協力して火災や自然災害などの防止に努めていることについて考える。 「防災」というものがつくものは、地域にどのくらいあるのだろう。	【思考・判断・表現】 「防災倉庫」が地域にはいくつもあること、「防災フェスタ」が開催されていることなどの意義について考え、適切に表現している。（ノート）
IV	10	・災害に備える事例について交流することを通して、地域の一員として何ができるかについて考える。 災害に備えるのは、消防士や消防団だけだろうか。	【学びに向かう力・人間性】 災害に備える身近な事例について交流することを通して、自分たちでできることを考えることができる。（発言・ノート）
	11 12	・「公助」「共助」「自助」について、自分の考えたことをまとめ、表現する。 学習したことを、リーフレットにまとめよう。	【思考・判断・表現】 「公助」「共助」「自助」について、設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することができる。（リーフレット）

6 本時の展開（8/全12時間）

（1）本時の目標

消防団の人たちは、消防署員と協力して消火や救助の活動をしたり、防災のための活動をしたりしていることを理解する。

本授業の見方である「視点」とは、事象や相互関係の視点であり、消防団が消防士と「協力」しているということである。消防団の仕事を、消防士の仕事と同じものと違うものに比較・分類するという考え方（方法）を通して、「消防団は、消防署員と協力して消火や救助の活動をしたり、防災のための活動をしている。」という知識を獲得することをねらいとしている。そのねらいにせまるために、「なぜ平岩には消防団があるのだろう。」という問いを設定し、消防団の仕事についてまとめた「スマイル新聞」という資料を使って比較・分類をさせていく。

（2）学習の展開

	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意事項	評価規準【観点】 (評価方法)・資料
課題の設定	1 消火活動の写真を見て、「消防団」について知る。	○だれが、どんなことをしていますか。 ・消防署の人がポンプで水を汲んでいる。 ○実は消防署の人は1人しか映っていません。 ・活動しているけれど、消防署の人とは違う服を着ている人がある。	◇消防団とは、「普段は自分の仕事をしていて、自分たちの住む地域に火事などの知らせがあると、現場へかけつけて活動する人たちの集まり」ということを理解させる。	①消火活動の写真 ②消防団の説明
	2 学習課題を設定する。		◇消防署から学校まで5分で消防車がきてくれるのに、なぜ消防団が必要なのかという疑問を引き出す。	③地域の消防団の位置と写真
なぜ、平岩には消防団があるのだろう。				
情報の収集	3 学習課題について予想をし、課題解決するために、何を調べる必要があるのかを考える。	○なぜ、消防団が必要だと思いますか。 ・消防署より早く現場に着けるから。 ・大きい火事だと、消防署の人だけでは足りないから。	◇「なぜ必要なのか」ということを調べていくために、「どんな時に、どのような活動をしているのか」ということを調べる必要性に気付かせる。	
実行	4 消防団は火災に関してどんな活動をしているのかを調べる。	○消防団の仕事を、資料を使って調べましょう。 ・消防士と似ている仕事が多い。 ・火が完全に消えるまで現場から離れない。	◇新聞から消防団の仕事を見つけて、付箋に書かせる。	④消防団の仕事（自作新聞） 【知識及び技能】 消防団について調べ、まとめている（付箋）
	5 グループでまとめる。		◇消防士と似ている（同じ）仕事と、消防団しかしていない仕事を分別させる。	

整理 まとめ 新たな 気づき	6 全体で交流し、消防団の火災に関する活動をまとめる。		◇「協力」というキーワードを使って、火災時の消防団の活動をまとめる。	
	7 西日本豪雨災害の時の活動を知る。	○消防団の人が活動するのは、火事するときだけでしょうか。	◇西日本豪雨災害の時の消防団の活動について知らせる。消防士、地域の方、消防団の方それぞれの立場から見た活動を知らせる。	⑤災害時の平岩の写真 ⑥消防士のお話 ⑦地域の方のお話 ⑧消防団の方のお話
	8 学習したことをまとめる。	（児童のまとめの例） 平岩に消防団があるのは、消火活動を手伝ったり、災害の時に土砂を運んだりする活動があって、一人でも多くの人を助けることができるから。		【知識及び技能】 消防団が地域を守るために様々な働きをしていることについて理解している。（ノート）
	9 消防団で活動している人の思いについて知り、次時につなげる。	○なぜ、他の仕事をして忙しい中、消防団で活動されているのでしょうか。	◇「せっかく平岩の土地にいたのだから、地域に貢献したい。」という思いを知らせ、その思いを汲んで、自分たちにできることは何か考えていくことにつなげていく。	⑨消防団の方の話（どんな思いで活動しているか）

7 本時の板書計画

9/26 安全な暮らしを守る

④ なぜ平岩には消防団があるのだろう。

⑤ ・人が足りない
・もっと速く助けられる。

⑥

平岩に消防団があるのは、
消火活動を手伝ったり、災害の時に土砂を運んだりする活動があって、一人でも多くの人を助けることができるから。

火事に関すること

（消防士と同じ）

- ・消火活動
- ・道具の点検
- ・放水訓練
- ・防災のよびかけ

協力

（消防団とちがう）

- ・火事の見守り
- ・防火水そうの水入れ

○たくさんの協力

○たくさんの人が助かる

○火事が防げる

写真

写真

災害の時

- ・土砂を運ぶ
- ・ダムを見に行く
- ・道を教える
- ・ひな人をよびかける
- ・ひなんじょに連れていく。

協力
安心

○たくさんの協力

○たくさんの人が助かる

○安心できる

8 児童のまとめの基準

A	B	C
消防団の活動の具体例と、消防団の存在意義を関連させてまとめている。	消防団の活動の具体例か消防団の存在意義をまとめている。	消防団の活動の例も存在意義も挙げることができていない。

